石敢當の由来

(財)沖縄協会会長　小玉 正任

◆「石敢當」という文言の初出は『急就篇』(B.C.四十年)

沖縄には石敢當(沖縄では「いしがんとう」、本土では「せきかんとう」、中国では「シーガンタン」)が多い。道路わき、ビルや住家の入口など、あちこちにある。中国伝来の魔よけであるが、その由来について最も的確に解説しているのは『辭源』(北京商務印書館)である。その大意は次の通り。

〝石敢當は唐宋以来、住民の家の門口、市街地や村里の入口に不祥を禁圧するため立てる石碑で、石敢當と刻んである。前漢の史游の撰『急就篇』(B.C.四十年ごろ成る)の中の姓名の例として「石敢當」がでている。唐の顔師古の注によれば、「石敢當」の「石」は実在した姓、「敢當」は虚構の名で、石敢當は実在した人物名ではない。敢當とは当たる所、敵がいないという意である。宋の王象之の撰『輿地紀勝』(一二二七年ごろ成る)によれば、宋の慶暦四年(一〇四四年)、福建省莆田県で唐の大暦五年(七七〇年)造立銘のある石敢當碑が発現した〟。

また、宋の施清臣の撰『繼古叢編』や明の陶宗儀の撰『輟耕録』に、「人家の正門が町なかの道のつき当たりにあれば、石敢當と彫った碑を立てて厭禳(まじないで悪魔を押え、災害を除き払う)するのは『急就篇』に基づくものと思う」とある。

◆五代晋の勇士説は誤り

以上で石敢當の由来は明々白々であるが、現在市販されているわが国の辞典類の中には「石敢當は(説に)五代晋の勇士の名」と解説しているものがあり、そのためか巷間にこの説が流布している。しかし、五代晋の高祖を護って討死にしたのは、『舊五代史』、『新五代史』、『資治通鑑』等の正史によれば、「石敵」であって「石敢當」なる人物は実在していなかった。石敢が討死にしたのは應順元年(九三四年)で、『輿地紀勝』によれば、それより百数十年前にすでに石敢當碑が存在している。勇士石敢がよく難局に当たったとしても、彼を石敢當碑の起源とするのは時系列的に無理な話である。五代晋の勇士説は全く成りたたないのである。

●宮崎県えびの市の石敢當

わが国最古の石敢當。「元禄二天己巳(一六八九年)」の銘あり。宮崎県えびの市にある。高さ百十二㎝の凝灰岩。えびの市指定民俗文化財。

●具志川村の石敢當

沖縄県具志川村(久米島)にある石敢當。「泰山石敢當」と刻されているが、「泰山石敢當」のことであろう。「雍正十一年癸丑(一七三三年)」の銘あり。国内で二番目に古い。一九八二年に発見された。高さ百十㎝の安山岩。具志川村指定民俗文化財。

●石垣市の石敢當

沖縄県石垣市立八重山博物館にある石敢當。上部が欠けている。「泰山石敢當」と刻されているが、メインの銘文は「姜太公在此」。乾隆年間(一七三六～一七九五年)の造立。高さ五十一㎝の琉球石灰岩。

●国際通りの石敢當

那覇市国際通り三越前にある石敢當。昭和四十七年(一九七二年)造立。高さ百五十㎝のテビ石(砂岩。)